

浦安市では「未来に向かって夢を持ち、豊かに生きる浦安っ子の育成」を基本理念とし、確かな学力（知）、豊かな心（徳）、健やかな体（体）、豊かなかかわり（参画・交流）、郷土愛（誇り）の5つのめざす子ども像を設定し、子どもたちの教育に取り組んでいます。今回は、学校、行政、地域をはじめ、豊かなかかわりの中ではぐくまれる浦安っ子の教育を紹介します。

就学前教育から小・中のかかわりではぐくむ

小中連携・一貫教育
小・中学校での豊かなかかわり

浦安市は、中学校区の特色を生かした小中連携・一貫教育を推進し、就学前から義務教育9年間を見通して、教職員が連携し、中学校の教員が小学校で授業を行ったり、発達段階に応じた子どもへのかかわりについて情報を交換したりすることで、「学び」と「育ち」のなめらかな接続を図っています。



また、中学生による小学校での本の読み聞かせや小学生の中学校部活動への参加・見学、小・中学校での合唱交流など、子どもたちの交流を深めることで、中1ギャップの解消に向けて小学生は中学校生活への不安をなくし、期待を高められるよう、中学生は思いやりや自尊感情をはぐくまれるよう取組を進めています。



アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム
就学前保育・教育から小学校生活へのなめらかな接続

市立幼稚園・認定こども園・保育園での「アプローチカリキュラム」、小学校での「スタートカリキュラム」をもとに、遊びを通して学ぶ幼児期の教育（学びの基盤となる経験）から、教科学習が中心の小学校の教育

（幼児期の経験を生かして育てる）へ、なめらかな接続ができるようにしています。また、小学校生活に期待を持てるよう、入学時の生活の変化や戸惑いを減らし、安心して小学校生活を送れるようにしています。

小中連携・一貫教育に関する意識調査 (平成28年度 浦安市小・中学生生活実態調査)



スポーツのかかわりではぐくむ

浦安市では部活動の社会人指導者をはじめ、スポーツを通じてさまざまな人とのかかわりの中で、子どもたちの健やかな体づくりに取り組んでいます。

JOCオリンピック教室
オリンピックが先生に

浦安中学校では6月28日～30日の3日間、JOCオリンピック教室（公益財団法人日本オリンピック委員会主催）を実施し、ロンドンオリンピック銀メダリストで千葉県出身の三宅 諒氏（フェンシング）をはじめ、4名のオリンピックを講師として招き、オリンピックの価値や精神、スポーツの素晴らしさを学びました。

- 講師 ● 伊藤 華英氏（水泳・競泳）
● 小口 貴久氏（リュージュ）
● 三科 真澄氏（ソフトボール）
● 三宅 諒氏（フェンシング）

(50音順)



全国中学校柔道大会優勝

8月に行われた第47回全国中学校柔道大会で優勝した、堀江中学校の藤城 心さんが市長を表敬訪問しました。



父も柔道をやっていたこと、そして母に金メダルを渡したいという思いから、小学校1年生から柔道を始めました。立ち技を強化して、4年後の東京オリンピックに出場したいです。

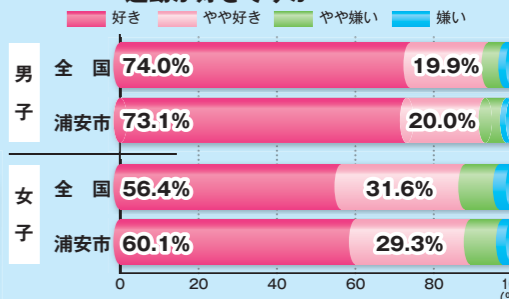
マリーンズ・ベースボールチャレンジ
プロから学ぶ「投げる」「捕る」「打つ」

教育委員会では、子どもたちの「投げる」「捕る」「打つ」の技術向上や運動に親しむ資質、能力を育てるため、千葉ロッテマリーンズの協力でベースボール型ゲームの体験授業を市内小学校で順次実施しています。野球のプロからボールの投げ方や、ボールを打つポイントなどを学び、子どもたちの運動能力の向上を図っています。



平成27年度 全国体力・運動能力 運動習慣等調査

運動が好きですか (小学5年生)



ソフトボール投げ (小学5年生)

